佐賀の果樹（2023）３月号

いよいよ果樹類も萌芽～発芽時期となり、今年の栽培管理作業が本格的に始まります。特に、病害を対象とした発芽前から生育初期の薬剤防除は、園内の菌密度抑制と病気の初発を遅らせるうえで大変重要です。九州北部地方３か月予報（福岡管区気象台、令和5年１月24日発表）によると、本年３月の気温は「ほぼ平年並」と予想されていますが、気を抜かず、気温の推移と生育状況をしっかりと把握し、防除適期を逃さないようにしましょう。

【果樹全般】

〇耕種的対策等（伝染源の除去）

罹病葉、罹病枝、落葉、枯れ枝などの病害の伝染源を除去することは、春先からの病害の発生を抑えるために非常に重要です。伝染源が残っている状況で、薬剤防除を行っても十分な効果が期待できませんので、まだ行っていない場合は、必ず取り組んでください。また、剪定枝は園外で適切に処分します（図１）。なお、耕種的な対策については、佐賀の果樹２月号に作業項目チェックシートを掲載しておりますので、ご参照ください。

図１　園内に残された剪定枝

【露地カンキツ】

発芽前の防除は、病害虫の発生状況、樹勢の状態、気温の推移など、様々な条件に留意しながら、防除を実施する園地の優先順位を決めて、計画的に実施しましょう。

〇かいよう病対策

発芽前～5月は本病の重要な防除時期であり、特に発芽前（2月下旬～3月上旬頃）の防除は重要です。樹勢や気温の推移に留意して、防除時期を逃さないようにしましょう。特に、本病にかかりやすい品種（中晩柑類）では、必ず発芽前防除を行ってください。

温州ミカンでも、昨年本病が発生した園、幼木園、高接ぎ園などでは、発芽前までにICボルドー66D 60倍等を散布してください。ただし、発芽直前は落葉を生じやすいので、前年度からの結果過多樹、樹勢が低下している樹への発芽直前の銅剤の散布は控え、4月以降の生育期に薬剤防除を行いましょう。また、気温が平年より高く推移し、散布直後に急激な気温の低下が予想される場合も、発芽直前の薬剤散布を避けましょう。

○黒点病対策

伝染源となる枯れ枝や剪定枝は、確実に園外へ持出し処分しましょう。伐採後の切株も伝染源となるため、抜根するか、肥料袋でしっかりと覆う（図2）等の対策を行ってください。

図２　肥料袋で覆ったカンキツの切株

○カイガラムシ類対策

前年にカイガラムシが発生した園地で、冬季にマシン油乳剤を散布していない場合は、発芽前の 3 月にマシン油乳剤 97% 80 倍を散布してください。その際、かいよう病の防除で使用する銅剤との混用散布は避け、近接散布にならないよう散布間隔を2週間以上空ける必要があります。そのため、かいよう病の防除が必要な園では、かいよう病の防除を先に行いましょう。

また、かいよう病対策と同様、樹勢の低下した樹への散布や散布直後に急激な気温の低下が予想される場合は散布を控えましょう。発芽前に防除ができなかった場合は、生育期間中に殺虫剤による防除をしっかりと行ってください。

【ナシ】

○発芽前の病害防除対策

黒星病菌は展葉直後から感染し始めますので、先ずは発芽直前と発芽初期にキノンドーフロアブル 1,000 倍を散布します。また、昨年のように開花が早い年は3月下旬に開花することもありますので、薬剤の散布時期を逃さないよう、生育をよく観察し、計画的に防除を行いましょう（表1参照）。スピードスプレーヤーで散布する場合は、全列走行でゆっくり散布して下さい。

表１　ナシ黒星病防除薬剤

時期	薬剤名	系統名 （FRAC コード※）	希釈倍率	収穫前日数	備考
開花直前	スコア顆粒水和剤 アンビルフロアブル	DMI(3)	4,000 倍 1,000 倍	14 日前まで ７日前まで	多発生園ではベルクートフロアブルを加用
	スクレアフロアブル	QoI（11）	3,000 倍	前日まで	
	アクサーフロアブル	DMI(3) ＋ SDHI(7)	2,000 倍	14 日前まで	
交配３日後	ベルクートフロアブル	ﾋﾞｽｸﾞｱﾆｼﾞﾝ（M7）	1,500 倍	14 日前まで	

	フルーツセイバー	SDHI(7)	2,000 倍	前日まで	発生が問題となっている園では DMI 剤を加用
落弁直後	スコア顆粒水和剤 アンビルフロアブル	DMI(3)	4,000 倍 1,000 倍	14 日前まで 7 日前まで	多発生園ではベルクートフロアブルまたはユニックス顆粒水和剤 47 を加用
	アクサーフロアブル	DMI(3) ＋ SDHI(7)	2,000 倍	14 日前まで	

※殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

〇白紋羽病対策

植え付け時に、フロンサイドSC 500 倍液を 50ℓ/樹、植え付けた苗の周囲（半径50cm 程度）に潅注処理しましょう。特に、白紋羽病の影響で植え替えをする場合は、土壌の入れ替えと植え付け後の薬剤潅注処理を必ず行いましょう。また、苗木の植え付け時に盛土をする際は、必ず接ぎ木部を露出させるようにしましょう。

【ブドウ】

〇黒とう病対策

萌芽直前から萌芽極初期（3月下旬～4月上旬）の防除が重要です。この時期にキノンドーフロアブル 600 倍またはデランフロアブル 1,000 倍を散布します。

【ウメ】

防除の際は、薬剤の使用方法をよく確認し、収穫時期に応じた薬剤を選びましょう。

〇黒星病対策

3 月中旬にフロンサイド SC 2,000 倍を散布します。なお、4 月以降に本剤を散布すると、果実に日焼けに似た症状の薬害を生じますので、3 月中旬の防除のみに使用します。

〇かいよう病対策

開花前から花殻離脱開始までの防除が重要です。この時期に、IC ボルドー66D 50 倍または Z ボルドー 500 倍を散布しましょう。両剤とも幼果期に散布すると果実に薬害を生じることがあるため、前述の防除時期を厳守してください。

幼木で多発すると以後の防除が困難となるため、幼木の時期は特に防除を徹底しましょう。

【モモ・スモモ】

〇細菌病対策（モモ：せん孔細菌病、スモモ：黒斑病）

露地栽培園では、細菌病対策のため、開花直前に IC ボルドー412 30 倍を散布します。なお、薬害を生じる恐れがあるため、必ず開花前に防除を行います。

【キウイフルーツ】

〇かいよう病対策

発芽前の防除には IC ボルドー66 D 50 倍等を、発芽後の防除にはコサイド 3000 2,000 倍（クレフノン 200 倍加用）等を散布します。本病の発生が認められない園でも、予防のために必ず防除を行いましょう。

〇キクビスカシバ対策

　本虫は卵で越冬し、3 月下旬から 4 月頃に孵化し、キウイフルーツの伸び始めた新梢に食入します。そのため、3月中下旬頃と4月上旬の 2 回、フェニックスフロアブル 4,000 倍を散布します。幼虫が新梢内に入ってしまうと、薬剤の効果が期待できなくなるため、食入前のこの時期に必ず防除を行いましょう。